

# キラリ★中野のチカラ

## 中野市落語研究会



お風呂上がりに  
笑いはいかが？

晋平の里間山温泉公園ぼんぼこの湯で毎月第3日曜日に行われる「ぼんぼこ寄席」。今年1月に250回目を迎え、恒例イベントとして定着しています。

今回は、落語愛好家が集い、市内外で寄席を行い、笑いで会場を沸かす中野市落語研究会の皆さんにお話を聞きました。

### ○50周年を迎えて

素人の落語愛好家同士で声を掛け合って結成したこの研究会も、昨年の7月で結成50周年を迎えました。

寄席で落語の前に披露するお囃子やマジックのことを色物といい、会員の中には、色物をやってくれる人もいます。最近では、高校生のときに落語を友達の前でやっていた、それが楽しくて研究会に入ってくれた人や、お笑い芸人の養成所で漫才を学んでいた人が研究会に入ってきてくれています。先月の「ぼんぼこ寄席第250回記念・中野落研結成50周年祝い寄席」で、若手の会員がコントを披露し、今までは一味違う寄席になってきました。

活動が少なくなってきた時期もありましたが、長年、イベントへのお誘いの声を掛けていただいたので、今まで続けることができたと思いま

す。これからも声を掛け続けていただけの限り、活動を頑張っていきたいです。

### ○ぼんぼこ寄席

ぼんぼこの湯が開湯したばかりのころに、開催の依頼を受けました。この寄席のお客さんは、お風呂上がりの休憩や食事をとりながら、寄席を見ているので、反応が薄いときもあります。しかしながら、私たちの実践の場として、これほど心を強くする経験の場所はほかにはありません。また、定期的に芸を披露する場があるということも励みになっています。

この寄席を楽しみに温泉に来てくれる方もいますので、今後も続けさせていきたいと思います。

### ○市民の皆さんへ

地元の温泉へ入りに来たついでに、落語を聞いてはいかがですか。

会員はそれぞれ多様な本職を持ち、芸も独学で磨いており、最近では、若手の会員が漫才やコントにも挑戦しています。お囃子やマジックもお客さんに参加してもらえそうな工夫をしています。

落語に興味のある人などは、お気軽に寄席に立ち寄っていただき、舞台を楽しみながら、演芸好きや落語愛好家の仲間を作ってみてはいかがでしょうか。

## 広報クイズ

### ■今月のプレゼント

「中野土人形(子守り猫)」  
(奈良由紀夫さん制作) ……2人

問題 中野市と音楽姉妹都市提携をしている2つの市はどこでしょうか？

「大分県○○市と宮城県●●市」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などをはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 3月24日(金)必着  
※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 子ども議会に参加した児童の人数は？

答え：「152人」

383-8614

中野市庶務課  
秘書広報係 行

(住所記載不要)

住所・氏名・年齢・  
電話番号・世帯主

# 地域おこし協力隊 うちやまの 信州中野に住む理由。

最終回



平成27年8月から、地域おこし協力隊として活動してきましたが、3月末をもって卒業することになりましたので、ご報告させていただきます。

協力隊活動を通して大勢の方と出会い、さまざまな事を教わりながら、皆さんの地域への強い思いを知りました。ここで一人の地域住民として、自分の家庭を築きながらより深く地域に関わりたいと思うようになり、「信州中野に住む本当の理由」を見つけることができました。

4月からは果樹農家を目指し修業に入ります。引き続き豊田地域を拠点に暮らしますので、これからもよろしくお願いします！

内山 奈月

最終回のごはん会は…  
『キノコな1日』です。

開催日 3月20日(月)

場所 なんだ屋

(穴田794-1)

夜は、キャンドルを灯します♪

※詳しくは、Facebookをご覧ください



Facebook QRコード

今まで本当に  
ありがとうございました！

今年1月に中野市が仙台市、竹田市と音楽姉妹都市提携をして50周年を迎えた。世に姉妹都市は多々あるが、音楽をもって姉妹都市として高らかにうたっている都市提携は珍しいといえる。半世紀にわたり音楽を絆として、様々な交流を継続してきたことは、感慨深く、また意義深いものがある。

これまで姉妹都市・友好都市等(以下、姉妹都市等)は、マンネリ化が進み、関連予算や事業が縮小傾向にあったことは否めない。一方で、昨今、地方創生の流れの中で、交流・連携・協働がこれからの地域発展の重要な要素といわれ、「都市間連携」の重要性に注目が集まっている状況にあるといえよう。

こうした状況下にあつて、音楽姉妹都市連携が半世紀にわたり継続してきたこと、また、未来に向けて友好の絆を継承・発展させていくための共同宣言を取り交わすことができ

たことは、歓喜に堪えない。

姉妹都市は全国で70%以上の自治体が一つ以上の都市と提携を結んでいるといわれ、その目的も文化、観光、経済、防災、環境保全といった、幅広い分野にまたがる。中野市も、音楽姉妹都市の仙台市、竹田市のほかに姉妹都市として北茨城市があり、災害時相互応援協定を結んだ埼玉県坂戸市や東京都中野区などがある。

これから50年先を見据えて姉妹都市等提携・協定締結をしていただいた自治体との交流を充実させていくために、私たちは知恵を出し合い、不断の努力が必要だ。

交流人口を増やし、地域の活力を増進するためにも、しっかりとした仕組み作りが行政にも問われており、一方で市民レベルでの認知度や関心度を高める行動が必要だと思っている。

東日本大震災を機に、「絆」の大切さが再認識され、これから、交流のノウハウや連携への取組手法など、新たな展開に向けての一層の創意工夫が必要だと、自らに問うている。

50年の節目を迎え、まずは、音楽姉妹都市の仙台市、竹田市を始めとする連携都市との絆の深化を図ることに、加えて国際化にも対応していきたいと思う。

## 池田市長の わくわくレポート

vol. 40

